

A B r i e f N o t e N o . 1 8 7

発行日：2007.10.17

発行人：Matsuo Masayasu

北東北サイクリング（夫婦日本縦断）その3 / 3

東京都板橋区 河野 照夫

（8）8月15日 水曜日 晴れ 峠越えは朝飯前、アブに追われて峠越え

今朝は3時過ぎに起きて4時出発。
さすがに暗い。

R107雄物川町大沢の新雄物川橋の袂に出る。ここで朝食を手に入れないとこの先しばらく山道で店が無いはず。しかし見渡しても何も無い。昨夜宿のお上さんは大森町と同じぐらいの大きさの町なのでコンビニがあると言っていたが影すらない。

田圃の中で草刈をしている叔父さんを見つけ、田圃の中に降りて行った。声を掛けると大きくブルブルと震え上がった。陽が登る前の朝早く、広い田圃の中、背後から声を掛けられたのだ。一心に仕事をしているところを脅かしてしまった。すいません。尋ねると山を越えたとずっと先にコンビニがありそこが一番近いとのこと。とても親切に教えて頂いたのだが、ガッカリ。空きっ腹を抱えて山越えするしかない。

道は「本荘街道」と呼ばれる国道だけあって走りやすい。何度か上り下りして部落に出た。コンビニはコースを外れて坂を下って登った先にあるらしい。難儀だがしょうがない。やっと手に入れたお握りはまたまた美味しかった。幸せが全身に広がってゆく。

K32に入って「八塩いこいの森」付近を喘ぎながら登っているとアブが襲ってきた。



県道32号 八塩いこいの森の先 アブを払いつつ



こんなこともあろうかと用意してきた虫除けスプレーを使うことにした。昨年の経験を生かしてスプレーを持ってきたのだ。が、それはバッグの中の底。出そうとしている間にワンワン襲ってくる。たまたま取りだすのを諦め逃げ出した。追いかけてきてチクチ

ク。兎に角脱出しようとペダルを漕ぐのだが疲れているし上り坂。虫を片手で払うとハンドルがフラフラ。スプレーを出そうと止まると寄って来る。逃げる。散々な目に会いながらも何とか脱出。全身に思いっきりスプレーを掛け一息入れる。

それなりに舗装された道を進んでいたがだんだん狭くなり、ついには小型トラックがやっと通れる幅の道となり、さらに草の生茂る砂利道になってしまった。我々の自転車はロードなので辛い。そこを抜けると今度は、何のために作ったのかとても立派な二車線道路！

我々は何とか由利高原鉄道の終着駅のある矢島町に着いた。真新しい虫除けスプレーを使い切ってしまったのでまず薬屋を探した。直ぐに薬屋さんは見つかったが、希望するものが無い。手動式のチンケなスプレー、据え置き型の煙出し式、あとは例の渦を巻いている蚊取り線香。これを走ってる自転車につけて本当に虫除けになるの？ 困っていると奥に入ったおじさんが小さな箱からピンを取り出した。「「はっか油」を鮎釣りの人がアブ除けとして使っている。これを使ってみたらどう？」。使用期限が半年前で切れているのを質すと関係ないよとアッサリ！藁の代わりにすがってみることにして¥700円。

ついでとは失礼だが近くに宿屋がないか尋ねたら電話帳を調べてくれる。教えてもらえればと思っている間にダイヤル、今日は盆休みで板さんが居ないのでだめだと言う。薬屋さんは我々の様子を紹介し、素泊まりならOKを取り付けてくれてしまった。しかもまだ午前中だというのにチェックインもOK、風呂も沸かしてくれるそうだ。ここまで来ると断れない。書いてくれた地図を持って旅館へ。サイクリストは貧乏旅行と相場が決まっているのでこういう時は何時もありがたい。

宿に荷物を預けてK32を鳥海山花立牧場に向けて出発。少し走ってからはっか油を塗る。いい香りだが塗り過ぎてヒリヒリする。その香りの合間にくずの花の甘い匂いがする。ここは「全日本ヒルクライムレース」の第二ステージ「矢島カップ Mt.鳥海バイシクルクラシック」になるところである。第三ステージが「全日本マウンテンサイクリング in 乗鞍」でありこの旅行から帰ったら直ぐに我々も参戦する。アブははっか油が汗で流れてしまうと直ぐに寄って来るが時々薄く塗っていると全く寄ってこない。近くまで来るが逃げてしまう。凄い効果である。

とてもいい天気であったが鳥海山の山頂はあいにく雲がかかっている見えなかった。14時30分宿に帰りお風呂に入ってお昼寝をした。私はたいしたことは無かったが家内のふくらはぎからふとももまで両足がはれあがっている。日本のアブは、家内が好きみたい。



雲の中に鳥海山 花立牧場にて

計画：角館 羽後長野 大曲 横手 湯沢

走行計画：63.2 km

朝の予定：大森町 大沢 黄桜トンネル 東由利 八塩いこいの森入口 矢島
鳥海山花立牧場 矢島町 走行予定：60 km
実績：大森町 大沢 黄桜トンネル 東由利 道の駅 東由利 八塩いこいの森入口
矢島町 鳥海山花立牧場 矢島町 走行実績：69.62 km

(9) 8月16日 木曜日 曇りのち雨 物見遊山なし、強化合宿で

今日はサイクリングの最終日。天気予報は雨。4時15分旅館の玄関の戸を静かに開けて出発。ライトと尾灯をフラッシュイングさせながら明けはじめる前のほの暗い街を抜けてR108を東へ進む。道は幅が広く時々急になるものの緩やかに登って行く。右に立派な照明設備の整った野球場やグラウンド、コート、体育館などが山間にづらりと並んでいる。月に何回何処の誰が使うのだろうか？維持費は誰が出しているのかしら？そんなつまらないことを考えながらひたすら登る。

清水淵峡のポケットパークで朝食。そこからしばらく走ると笹子(じねご)名水が左にあったが素通り。そこから更に登って二つトンネルを潜ると「松ノ木トンネル」1744mに着く。最初の二本は照明が暗くて怖かった。最後のは長い。いずれも交通量が少なかったので助かった。松ノ木トンネルを抜けると下りである。途中「院内銀山」への道があったが家内の気迫に押されて断念。院内に着いてやっと当初の計画コースに戻った。R13羽州街道に出たところに「岩井堂洞窟」があるのだが、雨が降ってこないうちに新庄に着いてしまいたいと先を急ぐ家内に押されこれも断念。

交通量の多くなった羽州街道を雄勝(おがち)峠に向けてだらだらとのぼりが始まる。峠はトンネルで潜るしかなく、潜ればそこは山形県及位(のぞき)である。家内が蛇の子供の脇を擦り抜けていった。この蛇を名所旧跡の代わりにビデオに撮った。次は主寝(ぬしね)坂トンネルだが手前でついに雨が降ってきた。新しい方は自転車は通行禁止なのでエンヤコラ旧道を登る。

程なく金山(かねやま)に到着。これで目出度く鳥取県出雲市まで繋がった事になる。前回訪れたときユックリ撮影できなかった町並みを撮影する。もう一度訪れたかった町の一つで、今日はお祭りでもあり再訪できて嬉しい。金山は羽州街道の宿場町であるが宿場らしからぬ「金山型住宅」という独特の建物が美しい。流石金山杉の産地！である。

昼食に夏祭りの焼きそばなどと思ったが、もう少し走ってと言うことで出発。やんでいた雨が降り出し 少し走ったところで雨脚が強くなりコンビニの軒を借りて休憩。雨宿りは先客が居て我々を追い抜いて行った若いサイクリスト二人。八月始めに東京から走り出し、北海道を一周して帰る途中だそう。一日に100-180km重い荷物をつけて走っている。しかも自転車も重そうでサスの付いたマウンテンバイクだ。まさに若さと体力勝負のツーリングである。顔つき身なりを見ていると半ば苦行僧の様に見える。我々とは違う。老いて病みがちな私にはもう経験できない世界である。先ほどから腹がへっているのでアンパンを立ったままとりあえず食べる。座って昼食を食べるのが家内の希望だけ。

雨の中をひた走る。結局店の無いまま新庄駅東口に正午前に着いてしまった。雨にあおられるように宿を取って結局昼飯は食べなかった。その後何度も昼ごはんを食べさせてもらえなかった、と言われることになってしまった……。

計画：湯沢 院内 主寝坂 金山 新庄 走行計画：52.7 km

朝の予定：矢島町 松ノ木トンネル 院内 主寝坂 金山 新庄

走行予定：75 km

実績：矢島町 松ノ木トンネル 院内 主寝坂 金山 新庄

走行実績：77.67 km

(10)エピローグ

翌日自転車を担いで電車で帰宅しました。二人とも来る時の何倍も元気になっていました。毎日、適度な運動、十分な睡眠、そして美味しく頂く食事のお蔭です。

コースは何時もはほぼ計画通り走るのですが今回はアドリブが一番多くなってしまいました。また今回は、「毎日、胸ときめくエキサイティングな旅」とはいきませんでした。それなりに楽しみました。そして元気になって怪我も無く帰れたのが何よりでした。「縦断」も「乗鞍」も完走できそうです。

東北の皆さん、旅の途中お会いした皆さんお世話になりました。ありがとうございました。

おわり